

データフォーマットに関して

MFV・MFC 形式 (未完成)

MFV・MFC 形式は ,DiMSIS-EX で用いている形式です . 図形要素を示すベクトル , 図形要素を属性情報を連結するコネクタがそれぞれ mfv,mfc に格納されています . mfv,mfc はともにヘッダ部とレコード部から構成されています . 1つのレコードは , フラグ , 種別 , (X , Y) 座標 (ベクトルは 2 組み以上 , コネクタは 1 組) , 高さ要素 , 時間要素 , 属性情報 (コネクタのみ) から構成されます .

この構成からわかるように , この形式では 1つのレコードは 1つの高さ要素 (海拔高度 , 比高) と 1つの時間要素しか持てません . そのため , 構成点ごとに違う高さ要素を持つ角度のある道路や , 構成点ごとに違う時間要素を持つ移動体の軌跡は表現できません .

また , ベクトルを構成する点は , 基本的にすべてノードと想定し様々な処理がなされます . 但し , フラグの 1つであるマルチリンクフラグを立てた (1 に設定した) 場合のみ , 始終点のみをノードとし , それ以外の点を形状点とみなします . 県境界など , 確実に形状点となる点が極端に多い場合には , このフラグの利用をお勧めします . 面空間を構成するベクトルが入っているファイルは 256KB 以下に容量を抑えておく必要があります . これは , 面領域の復元に用いているテーブルを作成する際の仕様なので , 面検索や面描画をしない場合には問題ありません . 他の機能は問題なく動作するのに色塗りだけができない場合は , このルールに反していることを疑ってみてください . このルールには , 賛否両論ありますが , 私は 1 ファイルあたりのデータ量の上限の目安と考えています . mfc にはこのようなルールはありませんが , 検索効率を考えれば , 大量のレコードを詰め込むことはお勧めできません .

ヘッダ部にはそのファイルに含まれる種別とその種別をもつレコードの存在領域に関連する情報が入ります . これはファイル内のレコードデータ検索を高速化するため利用されます . この部分が , NULL (0x00) で埋められている場合 , つまり何も入っていない場合でも動作は可能です .

KIWI+ 形式

[KIWI+ ホームページ参照](#)